

静岡大学附属図書館  
外部評価報告書

平成20年12月

静岡大学附属図書館

## はじめに

枕元に積み上げた書物の中にほとんどいつも塩野七生さんのものが含まれる。今置いてあるのは「ルネッサンスとは何であったか」。そのなかに、ローマ帝国の初代皇帝アウグストゥスの親友マエケナスは当代の詩人のパトロンであったことでも有名で、学芸助成のフランス語の「メセナ」の語源はマエケナスである、という一節がある。第二次大戦後の復興期にあまた作られた地方の国立大学のひとつである静岡大学は、メセナにも **Donation** にも縁遠く、いくつかの引き継いだ歴史と与えられた国費の中でその任をこなしてきた。そして法人化である。制度変われど運営費の大半を税金で支えられた大学の図書館として、大学と納税者に向けてその存在意義と求められる機能を明確にしていく必要がある。まずは、自らが自らの状況を知らねばならない。今回行った法人評価に向けた自己評価はその格好の機会であった。原稿が集まった段階でこれを全図書館員に精読することを求めた。つぎに行ったのが、豊かな図書館運営の経験を有される先生方に、私どもが行った自己評価と、現場を見ていただき、評価いただく作業であった。これをお引き受けいただいた委員の先生方には夏の暑い一日とそれに前後する数時間を頂戴し、誠にありがたく、心より御礼申し上げます。的確なご指摘と、心温まる励ましのお言葉を少なからずいただいた。

全図書館員は、今一度、また折りに触れ自己評価とこの講評を読み返し、限られた人員と資金という容易ではない状況の中にあるものの、静岡大学附属図書館が少しでも輝きを増すように励む所存です。

平成 20 年 師走

静岡大学附属図書館長  
加藤 憲 二

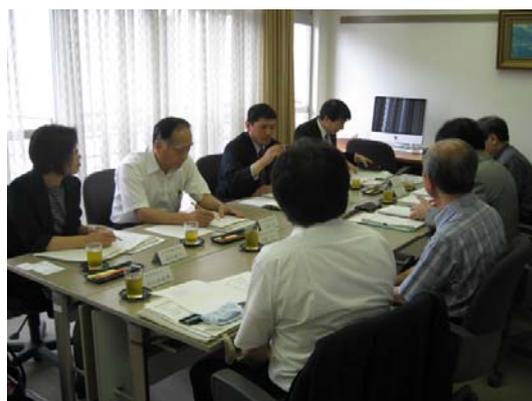
## 目 次

外部評価委員会開催の記録（スナップ写真）	1
外部評価委員会実施日程	3
外部評価委員会委員等名簿	4
評価項目	5
外部評価総評	6
外部評価・評価調査票	7
外部評価委員会記録	2 1
質疑応答	2 7
講評	4 0
（参考資料一覧）	4 2

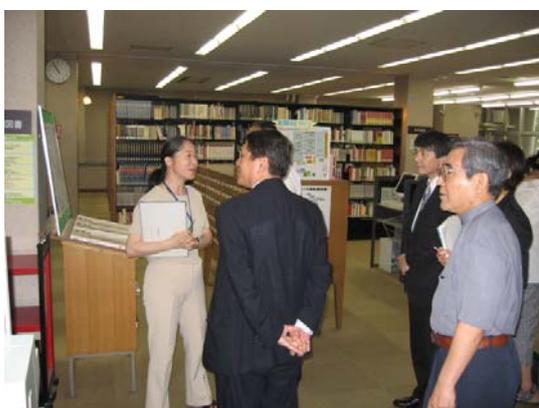
## 外部評価委員会開催の記録



委員会開催(浜松分館)



概要説明(浜松分館)



浜松分館視察





質疑応答（静岡本館）

静岡本館視察



講評（静岡本館）

## 外部評価委員会実施日程

平成20年8月1日（金） 10:00～16:30（午前 浜松分館 午後 静岡本館）

- |                      |             |
|----------------------|-------------|
| 1. 開会挨拶              | 10:00～10:15 |
| 出席者紹介（外部評価委員、図書館参加者） |             |
| 委員長選出                |             |
| 日程説明                 |             |
| 2. 附属図書館概要並びに自己評価書説明 | 10:15～10:45 |
| 3. 浜松分館視察            | 10:45～11:15 |

----- 移動・昼食（新幹線：浜松発 11:50 静岡着 12:16） -----

- |            |             |
|------------|-------------|
| 4. 本館参加者紹介 | 13:40～13:50 |
| 5. 本館視察    | 13:50～14:30 |
| 6. 質疑応答    | 14:30～15:15 |

----- 休憩 -----

- |                    |             |
|--------------------|-------------|
| 7. 外部評価委員による講評打ち合せ | 15:30～16:00 |
| 8. 講評              | 16:00～16:20 |
| 9. 今後の予定説明         | 16:20～16:30 |
| 閉会挨拶               |             |

## 外部評価委員会委員等名簿

### 1. 外部評価委員

伊藤義人	委員長。名古屋大学附属図書館長
天野忍	静岡県立中央図書館長
小西和信	武蔵野大学図書館長
増田曜子	静岡県立大学附属図書館事務長

### 2. 附属図書館長、浜松分館長

加藤憲二	附属図書館長（理学部教授）
雨宮正彦	附属図書館浜松分館長（情報学部教授）

### 3. 附属図書館自己点検・評価実施委員会委員

朴根好	人文学部教授
小西潤子	教育学部准教授
小野仁	工学部准教授
釜谷保志	農学部教授

### 4. 附属図書館職員（学術情報部図書館チーム）

大久保政博	学術情報部長
荃田美保子	図書館情報課長
塚本雅美	副課長
溜渕文子	副課長（分館担当）
澁谷卓三	主査（企画調整担当）
真中進	主査（電子情報担当）
渡邊貴子	主任（図書情報担当）
小濱進	主査（情報サービス担当）
釜田香寿枝	主査（分館サービス担当）
木下佳明	財務施設部経理・契約チーム 主査（調達第二） （前・学術情報部図書館チーム企画調整担当）

## 評価項目

1. 附属図書館の目的と目標
2. 活動の実施体制
3. 活動の状況
  3. 1. 資料の収集・整備
  3. 2. 利用者サービス
  3. 3. 資料多様化への対応
  3. 4. 社会貢献
  3. 5. 広報活動
4. 施設・設備
5. 財務
6. 管理運営

## 外部評価総評

名古屋大学附属図書館長  
伊藤 義人

まず、全ての外部評価委員が高く評価しているのは、加藤館長のリーダーシップを基にして、的確な管理運営体制ができていることである。静岡大学の将来に向けた使命と役割を踏まえ、附属図書館としての運営理念を明確に打ち出して、その具現化のための目標が的確に設定されている。自己評価報告書に関しても、客観的な評価を心がけており、十分なレベルに達している。

また、実際の種々の図書館運営において創意工夫がなされている。特に、図書館セミナーは、教員との連携もとれており、静岡大学の独自の取り組みとして今後も強力に推進されることが望まれる。さらに、学生モニター制度も、学生のニーズを直接聞く体制として大変よいと思われる。実現できることは、すぐに対応を図られており大変評価できる。今後は、予算措置などが必要なものについても、全学委員会、各部局および役員会でも検討をしてもらい実現を図るとよい。

最も大きな直近の課題は、浜松分館の図書館スペースの問題である。組織編成が行われて、浜松キャンパスの教員数と学生数が大幅に増えたにも関わらず、対応がなされていないのは、大学全体の大きな問題であると思われる。特に、法人化後は学生を大事にする大学運営が行われることが必要と言われており、附属図書館の整備は重要な事項と認識されているにも関わらず、対応処置がなされておらず、今後の具体的な計画がない状況は、早急に改善が望まれる。学生のために快適な学習空間と学術情報基盤を備えることは、大学の基本的な使命であり、附属図書館だけでなく、全学の問題として早急に取り組むべきと考えられる。

また、国立大学の財政状況が非常に逼迫する中で、電子ジャーナルの継続購読と増強については、静岡大学だけの問題ではなく、全国の国立大学との連携強化が必要であるが、学内におけるコンセンサスも十分とる必要があるであろう。電子ジャーナルが知識の源泉であり、学術情報基盤として必須であるとの学内構成員の認識を高める必要がある。

今後、館長のリーダーシップがさらに活かされ、かつ、図書系職員の創意工夫を取り入れた図書館運営がなされることを期待する。

## 外部評価・評価調査票

### 静岡大学附属図書館外部評価 評価調査票の記載について

1. 「静岡大学附属図書館外部評価 評価調査票」は、外部評価委員の先生方に、外部評価会議（8月1日）にご出席いただいた後、この記載要領に基づいて評価し、ご提出いただくものです。
2. 評価にあたりましては、「評価」欄の「非常に優れている 良好である おおむね良好である 不十分である」の4段階から選択してチェックしてください。  
4段階は、独立行政法人大学評価・学位授与機構の使用する評語に沿ったものであり、次のようにお考えください。  
「非常に優れている」 取組状況や活動状況が非常に優れており、十分な活動がなされている。  
「良好である」 取組状況や活動状況が優れており、良好な活動がなされている。  
「おおむね良好である」 取組状況や活動状況に改善すべきところはあるが、おおむね良好な活動がなされている。  
「不十分である」 取組状況や活動状況に問題があり、活動が不十分である。
3. 「コメント」欄には、当該項目に対する評価のポイントや判断の根拠となったことをご記入ください。特に早急に改善することが望ましい点の指摘、改善のための助言なども併せてご教示くださるようお願いいたします。  
  
例：〇〇に関しては××が充実しているが、△△が不十分である。  
今後□□に向けた取り組みが必要。なお、◎◎を検討してはどうか。  
  
この「コメント」欄には、できる限りご記入くださるようお願いいたします。
4. 各外部評価委員からご提出いただいたこの評価調査票は、集計の上、外部評価報告書に掲載させていただく予定です。また、この調査票及び外部評価実施当日の講評を基にして、外部評価委員長による取りまとめ及び提言をいただくこととなっております。
5. 以上により、誠に恐縮に存じますが、9月1日（月）までにご記入の上、ご返送くださるようお願いいたします。

静岡大学附属図書館外部評価 評価調査票

委員名：伊藤 義人

項番	評価項目	評価	コメント
1	附属図書館の目的と目標	<input checked="" type="checkbox"/> 非常に優れている <input type="checkbox"/> 良好である <input type="checkbox"/> おおむね良好である <input type="checkbox"/> 不十分である	大学の理念との関係づけを行い、附属図書館の基本理念と目的・目標が定められており、大変優れている。
2	活動の実施体制	<input type="checkbox"/> 非常に優れている <input checked="" type="checkbox"/> 良好である <input type="checkbox"/> おおむね良好である <input type="checkbox"/> 不十分である	限られた資源を有効活用しており、きちんとした自己評価報告書の作成もできている。館長のリーダーシップの下での活動体制が出来ている。大学の戦略の中に図書館が位置づけられる体制がもっとあるとよい。
3. 1	資料の収集・整備	<input type="checkbox"/> 非常に優れている <input checked="" type="checkbox"/> 良好である <input type="checkbox"/> おおむね良好である <input type="checkbox"/> 不十分である	限られた予算の中で、効率的な資料収集を行っている。ただし、医学部がないなどの理由で、学術情報基盤としての電子ジャーナルの購読タイトル数が全国平均値に達していない。今後の充実が望まれる。
3. 2	利用者サービス	<input type="checkbox"/> 非常に優れている <input checked="" type="checkbox"/> 良好である <input type="checkbox"/> おおむね良好である <input type="checkbox"/> 不十分である	学生モニター制度を作り、利用者サービスの向上を図っている。今後は、予算的な裏付けの必要なものも、大学本部と連携し、よりよい利用者サービス、特に学生の学習支援機能を強化することが望ましい。

項番	評価項目	評価	コメント
3. 3	資料多様化への対応	<input type="checkbox"/> 非常に優れている <input checked="" type="checkbox"/> 良好である <input type="checkbox"/> おおむね良好である <input type="checkbox"/> 不十分である	電子ジャーナルやデータベースなどへの配慮を行っている。今後、電子ブックの導入についても検討するとよい。また、紙の資料と電子媒体のバランスをどうするかの基本方針を決めるとよい。
3. 4	社会貢献	<input checked="" type="checkbox"/> 非常に優れている <input type="checkbox"/> 良好である <input type="checkbox"/> おおむね良好である <input type="checkbox"/> 不十分である	学外者へのサービスも順調に行っており、静岡県内の中心機関としての機能も果たしている。今後、東海地区の活動への貢献もあるとよい。
3. 5	広報活動	<input checked="" type="checkbox"/> 非常に優れている <input type="checkbox"/> 良好である <input type="checkbox"/> おおむね良好である <input type="checkbox"/> 不十分である	HPを利用しやすいように検討しており、図書館 NewsLetter も充実しており、積極的に広報に取り組んでいる。
4	施設・設備	<input type="checkbox"/> 非常に優れている <input type="checkbox"/> 良好である <input type="checkbox"/> おおむね良好である <input checked="" type="checkbox"/> 不十分である	<p>全体的に、学生の学習空間としての面積が少ない。とくに、浜松分館は、組織構成を変更して、学生を含む構成人数が激増したにも関わらず、図書館整備の対処がされてない。大学の戦略的な整備推進事業として、早急を実施すべきである。</p> <p>浜松分館が十分な清掃がされ清潔に保たれているのは特筆に値する。</p>

項番	評価項目	評価	コメント
5	財務	<input type="checkbox"/> 非常に優れている <input checked="" type="checkbox"/> 良好である <input type="checkbox"/> おおむね良好である <input type="checkbox"/> 不十分である	<p>どの国立大学も厳しい財政事情を抱えているが、厳しい財政状況の中での節約のために資料の見直しなど必要なことを行っている。大学として、ユーザーとしての学生を大事にする施策を行うように大学本部に図書館は要請すべきである。剰余金の図書館への支出に関しても要請できるとよい。</p>
6	管理運営	<input type="checkbox"/> 非常に優れている <input checked="" type="checkbox"/> 良好である <input type="checkbox"/> おおむね良好である <input type="checkbox"/> 不十分である	<p>館長のリーダーシップの下に、管理運営ができるような委員会や職員組織体制が出来ている。</p> <p>本館と浜松分館の管理運営については、最も密接な関係が必要かもしれない。</p>

静岡大学附属図書館外部評価 評価調査票

委員名：天 野 忍

項番	評価項目	評価	コメント
1	附属図書館の目的と目標	<input checked="" type="checkbox"/> 非常に優れている <input type="checkbox"/> 良好である <input type="checkbox"/> おおむね良好である <input type="checkbox"/> 不十分である	<p>静岡大学の将来に向けた使命と役割を踏まえ、附属図書館としての理念を明確に打ち出し、その具現化のための目標が的確である。</p>
2	活動の実施体制	<input checked="" type="checkbox"/> 非常に優れている <input type="checkbox"/> 良好である <input type="checkbox"/> おおむね良好である <input type="checkbox"/> 不十分である	<p>館長の積極的指導のもと、職員がよくまとまり、理念と目標の具現化に向けて、真摯に取り組む状況がうかがえた。</p>
3. 1	資料の収集・整備	<input type="checkbox"/> 非常に優れている <input checked="" type="checkbox"/> 良好である <input type="checkbox"/> おおむね良好である <input type="checkbox"/> 不十分である	<p>情報化に向けて必死に努力されている姿勢がうかがえたが、パソコン未処理の既受入資料の蓄積が見られるので、今後ともその早急な整備に努力されたい。 書庫内の整理はよくなされている。</p>
3. 2	利用者サービス	<input checked="" type="checkbox"/> 非常に優れている <input type="checkbox"/> 良好である <input type="checkbox"/> おおむね良好である <input type="checkbox"/> 不十分である	<p>大学附属図書館における県立中央図書館資料の返却窓口の設置は、学生や一般人の利用拡大に繋がっている。 週1回の定期的資料の物流があり、利用者へのサービス向上に役立っている。 「おうだんくん」により、情報検索や相互貸借がスムーズであり、効果を発揮している。 専門書については、相互補完的な効果がみられる。</p>

項番	評価項目	評価	コメント
3.3	資料多様化への対応	<input type="checkbox"/> 非常に優れている <input checked="" type="checkbox"/> 良好である <input type="checkbox"/> おおむね良好である <input type="checkbox"/> 不十分である	<p>財政的に厳しい状況のなかで、必要な情報確保のために努力されている。</p> <p>特に、高額な専門雑誌の収集・整理に苦心されている様子がうかがえた。</p>
3.4	社会貢献	<input checked="" type="checkbox"/> 非常に優れている <input type="checkbox"/> 良好である <input type="checkbox"/> おおむね良好である <input type="checkbox"/> 不十分である	<p>学内のみならず、学外に対しても、開かれた図書館として、積極的に情報を発信しようと努力されていることは評価できる。</p> <p>特に、一般市民に対する図書館利用の受入や資料返却の利便性供与などは、生涯学習の推進の上で、大きな力となっている。</p> <p>静岡県図書館大会での発表や取組には、県内大学の先導的姿勢がうかがわれ、大きく評価されている。</p>
3.5	広報活動	<input type="checkbox"/> 非常に優れている <input checked="" type="checkbox"/> 良好である <input type="checkbox"/> おおむね良好である <input type="checkbox"/> 不十分である	<p>開かれた図書館としての姿勢が広報活動によく現れている。</p> <p>特に、本年度より学術リポジトリの取組がなされたことは、大きく評価され、今後の蓄積と発展が期待される。</p>
4	施設・設備	<input type="checkbox"/> 非常に優れている <input type="checkbox"/> 良好である <input checked="" type="checkbox"/> おおむね良好である <input type="checkbox"/> 不十分である	<p>静岡・浜松ともに施設の狭隘化が課題となっている。とくに、浜松にあっては、2学部設置のキャンパスのなかで深刻であり、早急な対策が望まれる。</p> <p>両館ともに、危機管理の上からも、入退館者チェック設備の改善が急務である。</p>

項番	評価項目	評価	コメント
5	財務	<input type="checkbox"/> 非常に優れている <input checked="" type="checkbox"/> 良好である <input type="checkbox"/> おおむね良好である <input type="checkbox"/> 不十分である	<p>厳しい財政状況のなかで、工夫を凝らして財源を確保されようとする姿勢は評価される。</p> <p>浜松分館に対する学生用資料費の配分に配慮されており、適切な対応であると思われる。</p>
6	管理運営	<input checked="" type="checkbox"/> 非常に優れている <input type="checkbox"/> 良好である <input type="checkbox"/> おおむね良好である <input type="checkbox"/> 不十分である	<p>附属図書館長が大学の管理運営に関する諸会議の構成員として参画していることは、大学全体の運営を円滑に進める上からも重要であり、大きく評価される。</p> <p>人員削減の中、年齢構成や専門性を生かすために公募されたことは評価でき、今後とも努力されたい。</p>

静岡大学附属図書館外部評価 評価調査票

委員名：小西 和信

項番	評価項目	評価	コメント
1	附属図書館の目的と目標	<input checked="" type="checkbox"/> 非常に優れている <input type="checkbox"/> 良好である <input type="checkbox"/> おおむね良好である <input type="checkbox"/> 不十分である	最新の調査では、図書館のミッションステートメントを行っている大学図書館は、国立で 40.6%、国公私全体で 16.4%（上田直人 2007 年調査）であるが、貴学の場合は、平成 13 年に基本理念と具体的目標を定め、それを公開している点が大いに評価される。特に、目標の”「大学の顔」として、文化活動の拠点として、ゆとりを併せ持つ図書館建物及び設備の整備」は重要である、実現に向けての精進が期待される。
2	活動の実施体制	<input checked="" type="checkbox"/> 非常に優れている <input type="checkbox"/> 良好である <input type="checkbox"/> おおむね良好である <input type="checkbox"/> 不十分である	館長の優れたリーダーシップの下に、図書館の諸課題を審議検討する附属図書館委員会が活性化されていること、利用者である教員や学生の意見を吸い上げるシステム（教員懇談会、利用学生モニター制度）を構築していること、図書館事務機構との密接な意思疎通が図れている点などが評価される。
3. 1	資料の収集・整備	<input checked="" type="checkbox"/> 非常に優れている <input type="checkbox"/> 良好である <input type="checkbox"/> おおむね良好である <input type="checkbox"/> 不十分である	大学財政の逼迫しているなか、学生用図書予算を横ばいながら確保し続けている点が評価される。また、全蔵書の目録情報の作成を目指し遡及入力事業を実施していることは、収集した貴重な資源を活用する上でも重要なことであり、完了に向けて引き続き努力されることを期待したい。一方で不要な図書や重複資料を処分していくことも避けられない課題であるが、この点で専門研究者による選別を取り入れている点は画期的である。

項番	評価項目	評価	コメント
3. 2	利用者サービス	<input checked="" type="checkbox"/> 非常に優れている <input type="checkbox"/> 良好である <input type="checkbox"/> おおむね良好である <input type="checkbox"/> 不十分である	<p>土日祝日も開館し、休館日を最小限とする努力をしている。22 時までの夜間開館も適切である。入館者数の減少は、インターネットの普及の影響もあるので必ずしも図書館サービスの質の影響とは考えられないが、あえて入館者数を増やすための魅力的なサービスの在り方を追及していただきたい。学部学生への貸出冊数5冊は少ないように思われる。3、4年次学生は卒業研究等もあるのでせめて10冊にすべきではないだろうか。院生も少ない。</p>
3. 3	資料多様化への対応	<input type="checkbox"/> 非常に優れている <input checked="" type="checkbox"/> 良好である <input type="checkbox"/> おおむね良好である <input type="checkbox"/> 不十分である	<p>図書や雑誌などの紙媒体の需要は、必ずしも減少しているわけではないので、引き続き整備に努めるべきであるが、近年急激に伸びている電子ジャーナルの整備は、大学の研究インフラの根幹になりつつある。この点について、貴学は全学の問題として対応されているので評価できる。引き続き大学の研究環境を整える上での焦眉の問題として取り組んでいただきたい。DVDなどの映像資料の件数は不十分に思われる。視聴環境を含めて充実を望みたい。</p>
3. 4	社会貢献	<input type="checkbox"/> 非常に優れている <input checked="" type="checkbox"/> 良好である <input type="checkbox"/> おおむね良好である <input type="checkbox"/> 不十分である	<p>公共図書館との役割分担を認識し、大学図書館の特徴を活かしての市民サービスを展開している点は大いに評価できる。静岡県立中央図書館の全県蔵書検索システムにデータ提供をしていることも重要な活動である。市民公開授業参加者を対象とした図書館案内、館長懇談会などの取り組みも今後も継続して実施すべき企画と思われる。静岡県図書館協会、静岡県大学図書館協議会などを通じて地域図書館との連携も大いに期待される場所である。</p>

項番	評価項目	評価	コメント
3.5	広報活動	<input type="checkbox"/> 非常に優れている <input checked="" type="checkbox"/> 良好である <input type="checkbox"/> おおむね良好である <input type="checkbox"/> 不十分である	<p>ホームページの充実、マイ・ライブラリー機能の提供など図書館利用者への工夫をこらした広報に貴館の努力のあとが見られる。館報についても「図書館通信」に加えて速報性の高い「図書館 News Letter」を新たに刊行・配布している点を評価したい。一方で、貴館に限ったことではないが、図書館のことはあまりにも利用者に知られていないので、さらに館員全体の知恵をしばって積極的な広報に取り組むべきである。利用指導の充実は特記しておきたい。</p>
4	施設・設備	<input type="checkbox"/> 非常に優れている <input type="checkbox"/> 良好である <input type="checkbox"/> おおむね良好である <input checked="" type="checkbox"/> 不十分である	<p>書庫の狭隘化はすでに限界を超えているように思われる。図書館の努力によって何とか凌いでいる状態と受け止めた。10年前に見せていただいたときは、書庫内には書架に収まりきれない資料が横積みされ、書架の間にもダンボール箱がいっぱいであった。早急に書庫の増築が図られるべきである。また、学生利用者の集うことのできるゆとりの空間も重要である。特に浜松分館は緊急の対策を講ずる必要がある。</p>
5	財務	<input type="checkbox"/> 非常に優れている <input type="checkbox"/> 良好である <input checked="" type="checkbox"/> おおむね良好である <input type="checkbox"/> 不十分である	<p>電子ジャーナルの導入経費を全学予算として計上するなど、法人化後の厳しい財政状況のなかで、図書館資料などの柱となる予算を確保している点は大いに評価される。特に、オーバーヘッド経費、学長裁量経費からの補填は重要な実績である。引き続き、遡及入力事業などの完了に向けた予算獲得に努力していただきたい。</p>

項番	評価項目	評価	コメント
6	管理運営	<input checked="" type="checkbox"/> 非常に優れている <input type="checkbox"/> 良好である <input type="checkbox"/> おおむね良好である <input type="checkbox"/> 不十分である	<p>従来の2課体制から1課2副課長のチーム制に移行し、定員削減や人件費削減の影響を受けながらも従来以上のサービス品質を維持している管理運営体制を評価したい。特に、図書館長、学術情報部長、図書館現場の意思疎通が十分に図られ、図書館運営にあたっている点に敬服した。また、チーム制の利点も作用し、アイデアを出し合う、よく話し合うという環境も整備されているように見受けられた。引き続き職員研修などにより人材育成を望みたい。</p>

静岡大学附属図書館外部評価 評価調査票

委員名： 増 田 曜 子

項番	評価項目	評価	コメント
1	附属図書館の目的と目標	<input type="checkbox"/> 非常に優れている <input checked="" type="checkbox"/> 良好である <input type="checkbox"/> おおむね良好である <input type="checkbox"/> 不十分である	静岡大学の基本理念を踏まえ、図書館が果たすべき役割や責任が明確に打出された目的や目標となっている。
2	活動の実施体制	<input checked="" type="checkbox"/> 非常に優れている <input type="checkbox"/> 良好である <input type="checkbox"/> おおむね良好である <input type="checkbox"/> 不十分である	活動の実施体制は、館長や分館長の統轄の下に機能的に組織化されている。 学生モニター制度や特殊コレクションワーキンググループ、学術成果機関リポジトリ検討部会の設置など、今日的な課題の解決と創造的な図書館の発展に向けて機敏な体制作りをしていることが高く評価できる。
3. 1	資料の収集・整備	<input checked="" type="checkbox"/> 非常に優れている <input type="checkbox"/> 良好である <input type="checkbox"/> おおむね良好である <input type="checkbox"/> 不十分である	限られた予算の中で効果的な資料収集を行うための、選書システムの開発や学生モニターによる選書の工夫などは高く評価できる。 目録の遡及入力については継続的な登録作業や予算の確保をお願いしたい。
3. 2	利用者サービス	<input checked="" type="checkbox"/> 非常に優れている <input type="checkbox"/> 良好である <input type="checkbox"/> おおむね良好である <input type="checkbox"/> 不十分である	図書館セミナーの取り組みは、規模も内容も優れている。 学生の意見を積極的に取入れ、利用者ニーズに対応したサービスを展開しようとする姿勢は高く評価できる。

項番	評価項目	評価	コメント
3. 3	資料多様化への対応	<input checked="" type="checkbox"/> 非常に優れている <input type="checkbox"/> 良好である <input type="checkbox"/> おおむね良好である <input type="checkbox"/> 不十分である	<p>電子ジャーナルやデータベースの購入など資料の多様化に対応している。今後さらに利用者のニーズに応じた多様な資料の充実が求められる。</p> <p>機関リポジトリの構築は、大学の知的財産を社会に還元する意味においても非常に優れている。引き続きコンテンツの充実が望まれる。</p>
3. 4	社会貢献	<input checked="" type="checkbox"/> 非常に優れている <input type="checkbox"/> 良好である <input type="checkbox"/> おおむね良好である <input type="checkbox"/> 不十分である	<p>県内公共図書館との連携や市民へ資料の提供を行う等、地域の生涯学習の推進に寄与している。</p> <p>県内大学図書館のネットワークの中心館として積極的にその役割を果たしていることが高く評価できる。</p>
3. 5	広報活動	<input checked="" type="checkbox"/> 非常に優れている <input type="checkbox"/> 良好である <input type="checkbox"/> おおむね良好である <input type="checkbox"/> 不十分である	<p>ホームページは見やすく利用しやすい構成となっている。冊子体の「News Letter」はビジュアルでわかりやすい内容であり、「図書館通信」は図書館の運営内容を公開していることが評価できる。</p>
4	施設・設備	<input type="checkbox"/> 非常に優れている <input type="checkbox"/> 良好である <input type="checkbox"/> おおむね良好である <input checked="" type="checkbox"/> 不十分である	<p>静岡本館は情報検索端末や情報機器が使える席が確保されているが、多様な学習形態に応じた施設の整備も必要であると思われる。</p> <p>浜松分館については掲示や利用案内などがわかりやすく整備されているが、学生数に応じた学習空間の確保について対応する必要がある。</p>

項番	評価項目	評価	コメント
5	財務	<input type="checkbox"/> 非常に優れている <input checked="" type="checkbox"/> 良好である <input type="checkbox"/> おおむね良好である <input type="checkbox"/> 不十分である	<p>厳しい財政状況の中で業務の効率化や工夫を行っていることや外部資金の獲得、学内予算の図書館資料費への確保などが評価できる。</p> <p>大学運営の戦略の中に図書館が位置づけられ、安定的な予算の確保が必要であると思われる。</p>
6	管理運営	<input checked="" type="checkbox"/> 非常に優れている <input type="checkbox"/> 良好である <input type="checkbox"/> おおむね良好である <input type="checkbox"/> 不十分である	<p>館長のリーダーシップの下、職員の創意・工夫が反映された魅力ある図書館運営が展開されている。</p> <p>今年度退職者の補充として、公募による職員の採用を行うなど、法人化のメリットを生かした効果的な管理運営が行われたことは高く評価できる。</p>

## 外部評価委員会記録

【開会挨拶】

【出席者紹介】（4頁参照）

【委員長選出】

【日程説明】（3頁参照）

## 附属図書館概要並びに自己評価書説明

※以下、表記された頁数は「静岡大学附属図書館自己評価書(平成20年度)」の該当頁である。

### 静岡大学の概要について

加藤館長：手元の『自己評価書』資料を見ながら説明を進めていく。静岡大学は静岡キャンパス、浜松キャンパスがあり、浜松は情報学部が出来るまでは工学部中心であった。

雨宮分館長：情報学部は教養部改組で設置されてから13年になるが、浜松に建物が出来たのは1年半後である。

加藤館長：学生数は1万数百名、静岡：浜松は5：3と6：4の間といったところであり、静岡には人文学部・教育学部・理学部・農学部、浜松には工学部、情報学部がある。

### 1. 附属図書館の目的と目標について p.1～

加藤館長：きちんとしたものとしては、平成13年度及び14年度にだされた、「静岡大学附属図書館総合整備計画（第一次）」、「静岡大学附属図書館中期目標・中期計画」があり、これを基礎としている。

### 2. 活動の実施体制について p.3～

加藤館長：附属図書館には、図書館の重要事項を審議するために、館長、分館長、各部局から選出された教員16名及び学術情報部長を委員とした附属図書館委員会が設置されている。附属図書館委員会の下に、静岡キャンパスの委員で構成する本

館ワーキンググループと浜松キャンパスの委員で構成する浜松分館ワーキンググループを置き、基本は同じであるが各図書館固有の事項を中心に審議している。また、館長の下に利用学生モニター制度を設置、年2回程度のモニター会議を開催し、館長並びに図書館職員が、学生から生の声を聞く機会としている。学術リポジトリの活動は、平成19年度に国立情報学研究所の委託事業である「次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業」に応募し、採択された。最後の船に乗ったというところであり、一定の成果を得ることができた。

### 3. 活動の状況と成果について p.5～

#### 3. 1. 教育研究資料の効率的収集及び運用 p.5～

##### 3. 1. 1 資料の収集・整備 p.5～

###### (1) 蔵書とその管理、及び(2) 資料受入 p.5～6

加藤館長：蔵書数は118万冊と、同規模の大学とほぼ平均的である。具体的に大学名を入れた上で比較させていただいた。p.6の表3-1-2を見ていただくと、学生一人当たりの学生用図書費は2,800円であり、非常に少ない。5,000円まで引き上げたいと思っている。

###### (4) 資料選定制度 p.7～8

加藤館長：学生用図書選定については、各専門分野の教員および図書館職員から構成される学生用図書選定部会を開催して、選定を行っている。推薦リストの作成に当たっては、インターネット上で利用可能な販売目録等を活用し、平成19年度にはWeb上で選定するシステムを独自に開発構築し、選定作業の効率化を図っている。

###### (5) 雑誌整備状況 p.8～9

加藤館長：学術雑誌、特に外国雑誌(冊子体)の購入タイトル数は、電子ジャーナルの出版社との契約を電子オンリーに切り替えたことや価格の高騰もあって、激減している。p.9表3-1-3にあるように、冊子体は受入数1,581となっている。

#### 3. 1. 2 蔵書構成の改善 p.9～

##### (1) 教育関係資料 p.9～10

加藤館長：資料は、様々に配架されているが、特に書庫については静岡より浜松で狭く厳しい状況である。1-2年生の教養課程が改組により静岡から浜松に移行しても、それに見合う資料整備がまだできていない。また、旧教養部教員の研究室貸出図書がまだ処理が完了していないことやここ数年退職教員が多くその研究室貸出の処理が検討課題となっている。

シラバス参考書はすべて購入する方針で充実を進めてきているが、記入方法が様々だったり、版表示がきちんとされていない、教員への周知が大切

であり連携を取り始めた。

留学生用図書について、静岡大学は留学生が少なく、予算面も厳しい。学生の声も聞くようにしており、学生モニターにもアジア系留学生が参加している。欧米系の留学生より日本語が堪能であることもあり、専門書との間を埋める資料の整備がなかなか出来ていない。

## (2) 研究関係資料 p.11～13

加藤館長： 学生用図書費 2,800 円とほぼ同額程度が研究用図書費となっている。また、消耗品として購入されるものが多くある。収蔵コレクションについても、静岡大学としての特徴がない状況である。静岡には徳川家資料があるがこれは県立中央図書館に収められている。

## (3) 図書雑誌以外の資料 p.13

加藤館長： 図書雑誌以外の資料についても、厳しい状況である。

## (4) 資料の配置（開架図書と閉架図書） p.14

加藤館長： 図書資料収蔵のための書架の現況は、狭隘化が限界まできており、資料管理面、利用面に不都合を生じている。書庫スペースや空きスペースを工夫して凌いでいる。なお、浜松分館においては、図書館と隣接する空いた元機械室を 2 万冊収容の書庫に改修することが予定されている。

## 3. 2 利用者サービス p.15～

### 3. 2. 1 開館日・開館時間・貸出・相互利用 p.15～

#### (1) 開館日・開館時間 p.15～17

加藤館長： p.15 表 3-2-2 にあるように、365 日中 336 日開館している。これを少ないスタッフで開館し利用者対応をしているが、平日の時間外開館は浜松では大学院生 2 名で対応している。良くカバーされている。また、浜松分館は一般市民がアクセスしやすい立地条件となっている。一方でトラブルも生じている。

p.16 表 3-2-3 では、両館で 54.6 万人の入館者があるが、入館者数は年度を経るごとに減少している。全国的にみると大学附属図書館への入館者数は必ずしも減少しているとはいえない。図 3-2-1 のように入館者数が増加している大学、横ばいの大学もある。図 3-2-2 の学生 1 人あたりの入館回数をみても同様である。50 万都市の地方大学、特定の私立大学が頑張っているようである。一概に電子化で減少しているとは言えず、その原因を考え、今後はサービスの量とともに、質の向上を図る方策を考える必要がある。

#### (2) 資料の貸出 p.17～19

加藤館長： p.18 表 3-2-5 のように大学が実施している市民開放講座の受講生についても貸出を実施しており、学外者への貸出が増加している反面、学生への貸出冊数が減少している。これは、p.19 図 3-2-4 のように他大学を見ても減少傾向であり、

入館者数とは異なっている。

### (3) 相互利用 p.19～21

加藤館長：現物貸借については、静岡本館の貸出冊数は借受冊数を大きく上回っており、これは、本学が学内の図書を集中管理しており、NII-Webcat の所蔵図書館の表示が「静大図」になっていることが要因の一つと考えられる。

### 3. 2. 2 利用指導 p.21～23

加藤館長：基本的な知識を新入生に伝えて図書館を身近なものにしてもらう目的で、入学後の早い時期に「図書館利用セミナー（ベーシック編）」を開催している。p.22 表 3-2-10 にあるようにこれだけの回数を図書館職員が授業を行っている。このセミナーは、「新入生セミナー」の一コマに「図書館利用セミナー」を必須の単元として、90 分、ほぼ全新生に実施しているものである。平成 20 年度には「アドバンス編」も実施し、実施回数から見ても大変であった。カウンタ業務に支障が出かねないが、図書館職員は続けて活動したい意向をもっており、対応を考えなければならない。

雨宮分館長：教員にも評判が良く、継続の要望が高い。4～5月に実施しており、新入生にはとても評判が良い。

加藤館長：新入生に高校までの図書館と違うという印象を与えている。

### 3. 2. 3 学生の参加 p.23

加藤館長：平成 13 年度よりモニター制度を活用している。人が固定してきている傾向もあるが、図書館に対する意見や要望を聞いて図書館運営に反映させている。さらに、静岡本館では平成 19 年度より学生モニターによる書店での選書を実施したりしている。

## 3. 3 資料多様化への対応 p.24～

### 3. 3. 1 電子ジャーナル・二次資料データベースの導入 p.24～

加藤館長：電子ジャーナル及び二次資料データベースで、図書館運営費の 2 億円の内 1 億円かかっている。この 5% 値上がりは大きい。資料編 p.16 を見ていただくとおり、医学部が無いためかと思われるが契約タイトル数は 4,387 と県立大学の 9,000 タイトルには及ばない。利用については、1 ダウンロード当たり 3-8 ドルで収まっており、アクセスは多い方である。この分は死守していかなければならない。Nature, Science も導入でき、Web of Science は試行期間ということで導入している。これから強く働きかけをしていく。他大学から来た教員もそれほど困るほどではないようだが、学会の電子ジャーナルをカバーできていないなどの問題がある。

### 3. 3. 4 総合情報処理センター等との連携強化 p.27

加藤館長：総合情報処理センターとの連携は、情報交換を行っている。平成18年度の図書館業務用電子計算機システム、平成19年度の静岡大学学術リポジトリシステムの導入にあたって、仕様の策定やシステム関連事項について助言などの協力を得た。

### 3. 4 社会貢献 p.28～

加藤館長：いろいろ検討している。静岡県立中央図書館とは、相互貸借図書及び静岡県立中央図書館への返却図書などを搬送便により運用している。

### 4. 施設・設備について p.33～35

加藤館長：p.33表4-1でわかるように、収納に関しては破綻している状況である。閲覧座席数も学生数の10分の1程度しかない。入館者の回転率（1日あたり入館者数÷閲覧座席数）は、静岡1.44、浜松1.65である。平均的には席あるが、試験期など繁忙期には不足する状態である。

### 5. 財務について p.36～37

加藤館長：当初予算ではシーリングがかかって、年々予算配分額が減少する中、毎年1,000-2,000万円を外部資金の獲得や学内手当などで補填している。

### 6. 管理運営について p.38～40

加藤館長：平成16年の法人化の時から見ると3名分削減されている。主任から主査クラスの年齢層が手薄なことから、平成19年度末の定年退職予定者2名に対し、1名を公募で、1名を新卒者で採用した。公募に当たっては55名もの応募があった。

### その他図書館全般について

雨宮分館長：分館について言わせていただくと、分館は狭く、静岡のいかにも図書館らしいものではない。浜松キャンパスは工学部のみだったので、2学部にあふさわしい図書館になるには時間がかかる。今、館長が浜松を重視してもらえているのはありがたい。

小野評価委員：これまで、1・2年生は静岡で、浜松には3・4年生のみだった。1・2年生の教養図書は静岡本館の所蔵になっている。

加藤館長：静岡大学の工学部は強い。医学部のないところで研究所を持っているのは静大のみ、逆に言うと浜松分館は工学部の図書館で大学として面倒を見てきていないと言える。

【浜松分館視察】

【移動・昼食】

【静岡本館出席者紹介】

【静岡本館視察】

## 質疑応答

伊藤委員：事前に、自己評価書が配布されています。本日、浜松分館と静岡本館の視察をしました。この中で質問などあればどうぞ。特に順番にということはありません。

### 研究室備付貸出図書について

小西委員：研究室へ貸し出しされている図書について、教員用の貸出統計の中には入っていないように思えるのですが、研究室への貸出はどうなっていますか？

小濱主査：統計上は、教員の個人貸出と研究室貸出とは別になっています。

小西委員：貸出という形態をとっているのですか？研究室へは長期的な貸出という形ですか？

小濱主査：そうです。

伊藤委員：アクセスはできるようになっていますか？どこにあるかということも管理されていますか？

小濱主査：はい、そのようになっています。OPAC 上でも研究室貸出は表示されています。

加藤館長：学生モニター会議でも研究室備付図書の利用については意見がでました。研究室へ図書館から照会して利用できるようにコントロールしています。どこでもそうだと思いますが、応答してくださらない先生はつかまらない先生でこれはなかなか難しい。そういう事例はあります。

伊藤委員：現在では、研究室にあるものでもアクセスの保証をしなくてはならないことになっています。先生方のところにある図書も多少の待ち時間はあっても、見せるような努力をしなくてはならないことになっていて、たいていの大学はそういうになっているでしょう。

天野委員：図書館で研究室にある図書の情報も管理する形ですか？

加藤館長：そうです。

### 遡及入力について

小西委員：遡及入力計画ですが、全部入力をされるということだと思います。残りが25万冊とのことですが、主として研究室にいつている図書ですか？

加藤館長：そうではありません。

小西委員：25万冊はまとまっているものなののでしょうか？それは研究室にあるものが残っているということですか？

加藤館長：制度改革がいくつかありまして、法経短期大学部が廃止になったときの積み残

しなどがあります。そういうものはまとまった数があります。後は入力に難しいものが残っています。今の小西先生からのご指摘なのですが、私は素人館長なのですが、100%目指すというのは現実的ではないので、どこかで折り合いをつけて、また不用図書の判断を含めてより現実的に対応していく必要があります。今たまたま遡及入力は経費がついていますがそれだけでは終わりそうもありません。

小西委員：(自己評価書の)書き方が、検討するとか見直しをするとかになっていますが、今言われたところが、そのことをいっている部分ですね。

加藤館長：(遡及入力と書庫スペースについて)浜松分館の現状は非常に厳しいです。書庫のキャパシティをあげることも考えています。静岡のほうもこれ以上は望めない状態です。一方では教員定員が減ってきていますので各学部でスペースは生じてきているはずなので、そういうものを活用できる方法も考えたい。そのためにも目録の電子化は必須になります。本来、資料の管理は、資料がどこにおいてあっても利用可能であり、数時間かかるとしても利用できるようなしておく必要があります。

### 資料の電子化について

小西委員：作成する側からすると、電子化するということですが、利用者側からすると可視化ということになりますが、このレポート(自己評価書)全体の中では、資料の電子化についてはあまり書かれていなかったと思います。今の話は目録の電子化ということであったと思いますが、マイクロフィルム等はあまり増えないということでしょうか。紙の媒体というのは、例えば先ほど見ました新聞などがありましたが、(劣化が進んで)もたない状態になると思われますが、電子化などはどのように考えられていますか？

加藤館長：貴重な資料がたくさんある図書館ではありません。学生にとってのユーティリティから考えて、どういう形の電子化が静岡大学にとって一番よいものか、意義があるのか、これから議論をして行くことになります。研究基礎として必要なものについても議論をしていかなければなりません。

小西委員：紀要等をどうしようかということもあるのでは？

加藤館長：それは議論をしています。これは伊藤先生の刺激を受けまして、静岡大学ジャーナルを作るということを企画調整会議などでもいっています。その中にぶら下がっていただいてペーパーレス化を進めるということで、学長からも、館長の構想を支持するということをお願いしています。リポジトリへ登録するために紀要の著作権をクリアする作業からもやっていかなければなりません。

### リポジトリについて

増田委員：電子化・ペーパーレス化について、教員への依頼や電子化に向けていろいろな問題があると思いますが、図書館だけで、学術リポジトリなり電子化なりを進めていかれるのか？情報センターなどのかかわりはどうなっているのかを含めてお教え頂けますか。

加藤館長：会議などでどの程度伝わっているかはわかりませんが、これは大学の事業であることを言っています。現在は受けるところがないので図書館が運用しています。一方では図書館の情報発信機能でもあるのですが、一面負担が増えているところもあります。総合情報処理センターとの関係では、インフラ部分についてはお任せをしています。われわれはそれをうまく活用させてもらい、使い勝手のところでいろいろご相談をして進めることとなります。開発なども図書館としてある程度やっていかなければならないかと感じています。

大久保部長：総合情報処理センターがありまして、そこが情報の CIO になっています。CIO はいるのですが一体化・一元化されていません。そこで来年 4 月に向けて情報基盤機構を作ることを検討しています。その中で、例えばリポジトリなどのシステムについてもサポートしていくことを考えています。10 月からどういうものがあるのか、どういうバックアップをしていくのかということを検討して来年 4 月からある程度構築していくこととしています。

増田委員：図書館の職員のリポジトリやシステムについての新しい知識などが必要になってくるとは思いますが、そのための研修など具体的な対応についてどのようにされていますか？

大久保部長：基本的には、そういうスキルを持った人がいて、その人を中心にリポジトリの構築などを行っていますが、いつもそういう人がいるかということではありません。総合情報処理センターとの関係の中で検討していく必要があります。リポジトリを含めてシステムに対応できるこれからの人づくりが必要です。現在は、特別な研修を行っているわけではありません。あくまでも個人の能力に頼っているところですが、去年から始まった事業なのでこれからそういうことも必要だと思っています。

### 職員研修計画について

小西委員：4 年で図書館職員 3 名減ということで、厳しい中で運営をされているということなのですが、だからこそ人が大切ということにもなるということでしょう。その中で、機関リポジトリに対する技術的な要員をどうするのかということもありますが、もっと長期的に人をどうするのか、年齢構成をどうするのかという問題もあります。少なくなったら計画を立てなくてよいということは決してないと思います。研修計画について(自己評価書に)触れられていないと思いますが、その辺はどうでしょうか？

加藤館長：確かに具体的には書かれていません。私自身が就任したときに、非常勤の職員も含めて、図書館全体を見て仕事をしてくれといいました。その後常勤の職員についてある部分だけやっていたらよいということはやめてもらいたい、全部に目配りをしてやっていく、特に非常勤を活用してやっていくことを考えてもらいたいことを言いました。これからのスタイルを考えてみると常勤職員を増やしていく形にはなりません。そのことは、事務職員はいろいろな仕事を最初から背負わなければならないということになります。具体的ところは部長から話をしてもらいます。

大久保部長：職員のスキルアップについては、例えばNII（国立情報学研究所）の研修など、当館が中心になって地域の講習会を開催しています。ILLの研修はまだやっていませんが、外部の研修は受けています。これは人事上の話としてですが、職員の気持ちを変えなければなりません。図書館職員を減らせ減らせといわれています。外からみると甘いと思われる。図書館にずっといるとなまぬるい形になります。司書であっても1年なり学内学外の他部署に移動させることも加味して人事を考えていきたいと思います。今の時代にあった流れがわかるような人を養成していきます。専門性は今の人も持っていますが、それに今の大学のおかれた状況を加味した形を考えていきたい。図書館はサービス部門としては絶対に必要ですが、今までより全体の流れの中からつかめるような職員にしたいと思います。そのためにはどうしていったらよいかを考えていきます。

### 図書館の役割について

加藤館長：関連することで一言。どこの大学でもそうだと思いますが、学生相談室などを置いています。学生からのメンタル面で相談が増えています。図書館ではある種同様の場となっている部分があり、図書館におけるカウンタあるいは図書館が持っている空気も重要です。役員会などでもご理解いただきたいと思っているのは、単純に図書館の機能や仕事をこなしているだけではないということです。

伊藤委員：図書館に来ると癒されるといった、従来型の個別の学習空間の提供、学生が集まりやすく、静かな場所であるだけではない、新しい空間の提供ということが言われています。大学図書館の発想を変えないといけないということです。

### 狭隘化と資料廃棄

天野委員：これ（自己評価書）を読まさせていただいて、感じましたことは、私どもの県立図書館でも同じ悩みを持っています。建物の狭隘化が進んでいる。資料の廃棄の問題などがあります。人が来るのを待っている図書館から、情報を発信しながら、人が集まるあるいは学べる図書館へ移ってきていると感じた。具体的な

事例などがありましたら教えていただきたい。

加藤館長：ひとつは、学習用の参考図書の古いものはむしろ有害なので廃棄すべきと思っています。名誉教授、退官された教員にボランティアで（それらの選書を）お願いしたいと思っています。理学部でこの話をしたら賛成をしていただきました。まあ、そういったことをやっていきたい。発信機能については、ひとつはリポジトリ、ひとつは電子ジャーナルです。学内の発信基地的な側面を持っていきたい。もうひとつは、学生との接点ともなりますが、図書館セミナーを行っています。時間的には非常に厳しい状態ですが、この図書館をうまく使っている学生は得しているでしょう。上の学生が下の学生を教えるというのが上手なものもいますが、そうでないものもあります。そういうちょっとしたアドバースなどもしていく機能を持っているのではないのでしょうか。それをきっかけに図書館に学生が集まり、学生と学生のコミュニケーションの場として機能していくような場所を提供することがあります。

#### 地域連携について

加藤館長：それから、地域交流については、浸透していないのが問題です。大学図書館は利用できるのかという質問に対して、われわれは大学図書館の意味をしっかりと出せないといけません。場所の提供だけではないということも伝えていく必要があります。図書館は文化空間としての意味ももっていると思っていますで、是非ごいっしょにさせていただき地域交流に対応していきたい。

天野委員：(浜松分館から静岡本館への移動の) 電車の中でお話をさせてもらったのですが、私どもの県立図書館には多くのコレクションがあるわけですが、直接的なサービスに追われて現実的にそうしたコレクションについての職員の研修や研究ができにくい状況になっています。こうしたコレクションを通じて、静岡大学さんと連携しての情報発信とつながるようなことがあってもよいと思います。なかなか予算が厳しくて、何かやろうとしても難しい現状です。電気代やガソリン代も削られてきています。やるのであれば電気代、ガソリン代を削ってやりなさいという状況ですが実際には中々削ることは難しいです。ということで、どうしても研究的な部分は後回しになってしまいます。しかし、情報発信基地として、あるいは情報発信ができる図書館というのは必要ではないかと思います。

加藤館長：教員が 800 人いるというのが大学の強みですので、是非そういうことができればよいと思います。

#### 地域大学図書館の核として

増田委員：連携に関連して言わせていただくと、静岡大学さまには県内の図書館のまとめ役としてよくやっていただいております。先ほどの職員の専門性に

関しましてもいろいろ行っていただいています。

県内の大学図書館は、私立大学が多いのですが、当大学含め正規の職員が少なくなっております。静岡大学さまが職員の専門性を高めるなかで（県内大学と）いっしょに高めていただけると、私たち県内の小さな大学図書館にとっては大変ありがたく思います。今後は先進的な部分、例えばリポジトリやホームページの構築などについても、例えば講習会等を、大変だとは思いますが、いっしょに行っていただければありがたい。

加藤館長：私も着任してから県大図協という組織があり21大学が参加しているということを知りました。全国の大学の中で、静岡大学くらいの規模の大学が生き残りのためにはなかなか苦しいポジションで、全国で30ぐらいでしょうか。ただ、やらなければならないことはやっていかなければならないので、歯を食いしばってやっていくつもりです。

### 図書館セミナーについて

小西委員：図書館セミナーを90数回実施しているということです。それは続けていきたいとの館長の意向ですが、これは重要なことだと思います。ひとつは、図書館員自体が教えるということを通じて成長できる点です。この図書館セミナーで図書館の使い方を教えることは情報リテラシー教育の基本中の基本です。よりよい環境でこれを実行していくためにはどうしても図書館あるいは図書館職員だけでは大変です。私どもの大学でもそうですが、先生方の協力体制も必要です。

（担当の先生は）その時間はなんらかの講義やゼミの時間をつぶして図書館セミナーに参加していると思います。直接先生が（図書館セミナーを）担当することはなくても、少なくとも精神的には協力してもらおうとかするとよいでしょう。図書館職員が実施することは職員のためでもあります。先生方の協力体制を実現する形も考えてよいようです。明治大学のよい例があります。先生方の評判も非常によい。1万5千人くらいを教えています。図書館職員の努力を理解してもらうことも必要です。

加藤館長：教員は、ほとんどセミナーに同席していますね。

小濱主査：はい。図書館セミナーのベーシック編ではほとんどの教員が同席しています。

加藤館長：新入生の担当の教員ですね。

小濱主査：はい。それから今年は、アドバンス編というものを1年生にも広げました。それは先生の方にテーマを出してもらって、そのテーマに沿って文献調査を行うという方法でやっています。

小西委員：例えば、国文学の先生であれば、国文学関係のテーマで行うということですか。

小濱主査：はい、そうです。

小西委員：いろいろなところに話がかからんできますが、図書館員がどれだけ実力があって

どれだけ努力をしているのかということ学内で認知してもらおうということが大事なので、先生方がセミナーの現場についてこられているということはとても良いことで、図書館員のパフォーマンスを見ることで、図書館が努力しているなということを知り、また図書館の専門性もわかっただけなのではないでしょうか。そのことを申し上げたかったです。

加藤館長：この春新しく用意したアドバンス編の希望が殺到してうれしい悲鳴となりましたが、ほぼ全教員が続きをやってくれということになると倍増になってしまいます。教員にとってはある種丸投げ的なところもありますが。

小西委員：事務局とか図書館以外のところから見て、図書館の定まったパイだけを見て、図書館員がたくさんいるように見えます。10人いるのなら1人くらい削ってもいいだろう、他はもっと苦しいんだぞという見え方をします。実は、図書館の仕事の内部・細部がどのようになっている、それぞれ専門的な仕事を分担してやっているか見えないので、総数だけを見ます。私たちが事務局を見たときに庶務の人も会計の人も国有財産を管理している人もいっしょくたにしてみるのはしませんから、国有財産管理については1名いるでしょう、研究費調達で1名いるでしょう、だから事務局のほうが削れないでしょうということになります。図書館については、カウンタに1名いて、レファレンスに1名いてもその仕事の中身がわからないから全部で10名いるでしょうというような見え方をしていることが弱いところだと私は認識しています。だから、とにかく図書館がやっていることを学内の皆さんにわかっただけが必要かなということだと思います。

大久保部長：今の情報リテラシーに関係してですが、法人化になる前まで、事務職員は、教員の家僕のような存在になっていましたが、そうではないので、授業をもっているのが教員で事務との両輪で支えています。それを補完する形で情報処理センターが情報基盤機構を作りますので、教員が苦手な分野にもいっしょに（事務職員も）入ってやっていきます。島根大学では教員と事務職員がいっしょになって情報リテラシーの授業をやっていきます。そういうことをやっていけば、事務の質が上がっていきます。今の学長も事務官を家僕であるという捉え方をやめろと言いつつ常にしていきます。教員にはそういう部分がありますので、それぞれ専門性は違うけれどもいっしょに支えていくのだということで、この情報リテラシーはいい例としてやっていきたい。

### 利用統計（レファレンス、データベースなど）について

増田委員：（自己評価書）にはレファレンス統計が入っていなかったのですが。

小濱主査：レファレンスについては、国立国会図書館のレファレンス共同データベース事業にも参加していますし、簡単な質問など件数の統計は取っています。だいた

い1日に5-10件くらいです。これは簡単に答えられる質問の件数です。後は、1週間に1回か2回くらい調べなくてはならない質問もあります。それらについては事例集として集めています。

小西委員：問題としたのは、レファレンスの統計の数え方はどのような方法でもよいのですが、データベースの利用統計とか、いわゆるサービス統計というものがここでは出ていませんでしたということです。データベース統計について、どのくらいの実績があるのかどうかと思ったのですが。

伊藤委員：質の違うものが同じにカウントされるので、統計を出していないところも多いです。この本がどこにありますかという質問を1件カウントするのと、この文献に掲載している資料を探すにはというのでは同じ1件でも質が異なります。誤解を与えるので（レファレンス統計を）出していない場合が多いですね。

小西委員：データベースの利用統計は出ていますか？

小濱主査：データベース統計は図書館委員会には報告しているのですが、ここには掲載されておりました。

伊藤委員：日本の大学のレファレンスは、アメリカなどと比べるとレベルが違います。図書館職員に頼んで探すよりは自分で探したほうがいい、図書館職員はあてにしないという、他の大学での例ですが、そんな辛らつな意見もあります。そのところをどう対処していくかということですが、多分1人では対応できないと思います。単独のカウンタであるいは単独の大学で対応するという時代ではなくなってきました。なかなか難しく、国会図書館などでも（レファレンス事例を）集めていますけれども、ある意味では死んだ事例ですので、それをうまく使う仕組みが必要です。必ずしも教員から期待されているわけではありませんが、なんとかしなければならぬというのが現状でしょう。

## セキュリティについて

伊藤委員：今日の見学の中でもあったんですが、セキュリティ、防災関係について、直近で対策している事項というのはありますか？

加藤館長：入退館装置で、今予算のつめをしているところです。誰が入っているということ把握できませんので非常に困ります。本館では、マニュアル的に書庫の出入りを記録しています。地震が起きたときを考えると背筋が寒くなります。

伊藤委員：利用者のセキュリティについて、部外者が入ってくる場合の対処などはどのようなされていますか。

加藤館長：現実には、浜松の方が街中にあるということもあり、パソコンの盗難がありました。卒業生、学生などが自分の家の中にいる感覚でいる。そのところは、痛し痒しで、自分の家の中にいるのではないという広報はしたくないのですが、わかるような広報はしております。ただ、入退館システムがない現状では、い

ちいち問いただすこともできません。

大久保部長：私個人のアイデアですけども、外部の人が館内に持ち込んだパソコンが盗まれたわけですが、図書の場合に使っている感知するテープを一時的に張っていただくという方法もあります。何もやらないよりはよいのではないのでしょうか。とりあえず、言葉での周知は掲示などでしております。

加藤館長：浜松では時々館内を職員が回って目配りをしています。静岡の場合はケースバイケースでやっています。なんとなく見ているんだなということを知らせることが必要なのかなと思い始めています。

小西委員：人が見えない場所については必要かもしれませんね。

大久保部長：今お願いをしているのは、人が来たらその場所だけ明かりがつくような人感センサーなどの設置ですね。後はへんな人が入ってきたときにどうするかといったときに具体的にはまだですね。

小西委員：緊急マニュアルなどですね。

天野館長：クレーマーはどうですか。

小西委員：県立図書館さんですときっと毎日のようにあるのかもしれないですね。

荃田課長：浜松分館には電話でのクレーマーが2件ほどありました。年に2回くらいですね。

### 学生モニター会議からの要望でできたこととできなかったこと

伊藤委員：館長も書かれています。学生モニターからの意見で、具体的にどんな内容が出てきて、実現した事項、できなかったことはなんですか？館報に書いてあった場所のホームページになかったものですか。

増田委員：私も探してみましたが、館報に書いてあった場所以外のところにありました。

小濱主査：すみません、現在ホームページのリニューアルをしているものですから。

伊藤委員：それは変わっても構わないのですが、具体的に、図書館に対して厳しい意見も出てくると思うのですが、できたこととできないことはなんですか？

小濱主査：毎回でてくるもので、施設などお金がかかるものはなかなか実現できていません。去年のモニター会議で、例えば、年末年始に卒論の追い込みの時期でそのときに閉館となってしまうのは困るという意見が出ました。お金がかからないようなことはできるだけ実現しようということで、今年、2日間開館することにしました。施設関係でお金がかかること、例えば4階にトイレがほしいなどといったことに対しては実現できていません。

加藤館長：前者は教育学部の事例で、学年暦を見ているだけではわからないことがあります。試験などの日程ではわからないところがあり、抜け落ちているなどということがありました。それから書庫への入庫がありましたね。

小濱主査：学部生でも書庫へ入庫できるということを知っている学生が少ないという指摘

がありまして、新入生のセミナーで書庫を案内するのですが、次回からは、学部生3年生以上の学生は申請すれば書庫に入れますよと伝えようと思っています。モニターからはこちらが気がつかないようなことを指摘されることがあるので、そういうことに関しては実現するように努力しています。

伊藤委員：実現したということはどこかに報告をするんですか？

小濱主査：ホームページにこういう質問があってこういう対処をしましたということを掲載しています。

## 開館時間について

伊藤委員：ここはまだ9時開館ですよ。

小濱主査：はい。

伊藤委員：9時開館は、そろそろ少数派になりつつあります。授業が開始しているのに図書館が開館していないのは何だと、私が館長になったときに問題にしました。（さらに）授業の前に下調べをしてから授業を受けたいという要望が出ました。何とかしようとしているのですが…。静岡大学ではそういう要請は出てこなかったですか？

加藤館長：ここ1年半では出ていないですね。名古屋大学は何時開館ですか？

伊藤館長：8時45分開館です。私が8時30分からあげようと思ったら、職員の勤務時間が8時30分なので、どうしても15分は開館前にほしいということで30分開館はやめたのですが、今度は8時から開館をという要望が出てきました。確かに、下調べをしてからという8時からあいてないといけないのかなと思います。

加藤館長：（静岡本館の場合は）坂を上がってこなければならないということもあるのか、今のところ要望はないですね。

増田委員：静岡県立大学附属図書館の場合は、ちょうど隣が食堂なので、朝開いていて利用している学生を見かけましたが、これは考えなければいけないかと思いました。

伊藤委員：名古屋大学では朝入口で待っているんです。しょうがないので玄関だけ開けて中へ入れて、バリアは通さないようにしています。多いときには何十人が待っています。ある私立大学では問題になって理事会に上がって理事長命令で早くあけたようです。9時開館は当たり前だと思っているとそうではなくて国立大学でも早くから開館しているところも多いです。職員はサービスの体制が整ってからあげたいということです。それはあけてから準備をすればよいのではないかというのが私の考えです。お金をかけてというとなしくなります。

大久保部長：職員交代制にすれば可能ですね。

伊藤委員：授業が始まっているのに図書館が開いていないというのは非常にイメージが悪

いです。少なくとも大学があるいは授業が始まっているときには、あるいは職員がきているときには開館する必要があります。図書館委員会などで早く開けますということを決定すればそれでよいです。学生にとってはよいことなので。

加藤館長：入館者数は減少に歯止めをかけるという点でも....。

伊藤委員：入館者数もそうですが、本の貸し出しが減少していることはちょっと…。多分、場所的な問題と、質的な問題—借りたい本がないとか。もっと言うと、授業の中にきちんと図書館が組み込まれていて、本を借りないとレポートが書けないような課題がでるとかすればよいのですが、なかなか先生方を変えるのは難しいので、われわれの方が変わらないといけないと思います。

加藤館長：機会を見つけては広報しているのですが、シラバスを図書館でフォローアップしようとしていますが、それがまだ先生方に聞こえていません。がんばって広報をしていきたいと思っています。

### 中期目標の達成度

伊藤委員：全般的には、これで4年たちましたけれども、一応は暫定ということでしたが、すでに静岡大学附属図書館の達成度を書かれていますと思いますが、どんな状況でしょうか？

加藤館長：全く取り組めてないというものはなかったと思います。予算がらみのことがあるのですが、予算がらみについては個別のバトルだけではなく、役員会への要求なども必要で、基本的には図書館とはなんぞやというところに起因しているところが多いように感じます。去年のクリスマスに館員全員に10年後の図書館像を書いてもらいました。ほとんどの職員が出したのですが、正直なところ甘い。この図書館の将来的な具体像を持たないといけない。それをわれわれがしっかりと役員会に伝えていかないと、個々のお金の取り合いにいつも話がいつてしまいます。学生用図書費についても、金の流れからもきちんと説明できないとだめだと考えています。説得力がなければいけません。

### 学生用図書確保について

小西委員：学生用図書費に授業料の1%をとというのは、先生ご自身の発案ですか。

加藤館長：信州大で会議があったときに出てきた数字で、私自身は漠然としたものですが、1%というのが妥当な数字と思われれます。信州大学の館長ははるかに老練で、それを電子ジャーナルにも振り分けているようですけれども。学生からもらっている金がどこへいつているのかということの説明が必要であることと、今、浜松はけっこう工学部が面倒を見てくれているのですが、学生後援会から寄付をもらっています。静岡のキャンパスでも始めようとしています。そのときに大学自身が授業料の何%を出していますとしっかりいえないで、ただお金をくれと

いうのは失礼だし、大学からの説明をする必要があります。

### その他、最後に各委員から

伊藤委員：そろそろ時間もありますので、あと数件程度で。

### 図書館の使い方

天野委員：最近学生のレポートなどはパソコン上でつぎはぎで作成しているという深刻な問題ですが、図書館が直接関係するのかわかりませんが、図書館では先生方と連携しながら、学生の向上のために努力されていることはありますか？

加藤館長：まだ具体的なものはありません。先ほどから出ていて繰り返しになりますセミナーですが、本館にはセミナー室がない。このSCSの部屋ですが、SCSがなくなることがあり、箱ものすらない状態なので、もう少しセミナーで使っていたいて、先生方が図書館をこう使うのだということを見せなければいけません。

天野委員：学校図書館を使うことについては、先生方にプロの意識改革がないようです。貸出が図書館の使い方として一般的です。先生方が、図書館の重要性について認識をしていただくといいなあとと思っています。大きな課題だと思っています。

加藤館長：ひとつだけ関係することがあるとすれば、考えているだけですが、事務組織との関連の話で、(学生と事務のインターフェースとなる)学務ともう少いうまい連携を取っていかなければなりません。特に浜松における改築ビジョンというのは、学務と学生と図書館と情報とが、大学の中できっちり横につながっていくことを提案しています。

### 他大学の比較について

増田委員：評価書を読ましていただきまして、評価と課題が自館に対し厳しく書かれているなと思いました。このように厳しく評価されて課題をはっきりつかんでいるということはすばらしことだと思いました。この課題を自館で解決していただければ、すばらしい図書館になるのではないかと思います。

評価書5ページに静岡大学と同規模の大学の蔵書比較表がありますが、16-17ページには5ページとは違った比較での入館者数の推移などがあります。入館者などについても同規模の大学との比較表があったほうがよいのかと思いました。

### 次期中期目標について

伊藤委員：もうそろそろ大学の次期中期計画中期目標の作成時期だと思いますが、今言わないといけないのですが、図書館がもっとも大学の戦略の中で、その中に入れてほしいものはなんですか？

加藤館長：まず1番目は、学生用図書の充実ですね。いろいろなところでほころびがでてきています。1%という数字がいいかどうかは別として、学生にもっと目を向ける、学生の教育に目を向けることがひとつで、もうひとつは、電子ジャーナルの問題です。電子ジャーナルはコストの問題が議論されていますが、財務上と（取扱の）窓口の問題がありますが、窓口のほうは図書館でよいのですが、財務上の問題は、きっちり大学でどう考えるのか必要で、総合戦略会議（役員会と評議会の間にある会議）で、1枚もののレポートをつくり提案するつもりでいます。静岡大学クラスの大学での電子ジャーナルはもっと充実させなければいけません。コスト的に考えればたいしたことではないです。大型の機器を買うことを考えれば、2000-3000万円位がんばればよいということです。それが二つ目です。大学がどう考えていくかということ、図書館の中でやると、どうしてもわれわれはしわ寄せをしてでも買わざるをえないところがありまして、最終的には学生にしわ寄せが行くことになりまずいです。3つ目は発信機能としての静岡大学の学術成果をまとめる機能です。学部、学科で出ている研究紀要をまとめて大学のジャーナルとして発信していくことです。それがわかりやすい方法であり、同時にリポジトリの発展にもつながる形です。

伊藤委員：ちょうど予定された時間になりました。早く始めて予定された時間になりました。それではこれで質疑応答を終わります。

## 【休憩・講評打合せ】

## (総括講評)

1. 附属図書館長のリーダーシップの下に、厳しい環境の中にもかかわらず図書館の改善のために非常によく努力されていることが感じられた。今後とも厳しい課題に積極的に取り組まれることが望まれる。
2. 附属図書館の現状の問題点及び将来のビジョンに対して鋭い問題意識を持たれていることがわかった。

## (優れた点)

1. 大学の情報発信の一環としての学術リポジトリを積極的に位置づけ取り組んでいる。
2. 県内のネットワークの中心としてリーダーシップをもってやっている。
3. 図書館セミナーの取り組みは、規模も内容も水準が高く、引き続き教員の協力を得て進めるべきである。
4. 学生モニター制度は非常によい制度であり、今後とも引き続き続けられるのがよい。
5. 遡及入力に関して努力されている。今後とも引き続いて行われるのがよい。

## (課題)

1. 学生数及び職員数に対して図書館のスペース（書庫スペースを含む）が絶対的に不足している。特に浜松分館においては、キャンパスの再編に際して図書館機能の拡張整備を図るべきところ今日に至っているので喫緊の課題として取り組むべきである。学生の学習空間の確保とともに、学生の新しいニーズに応える機能も検討するとよい。
2. 大学の次期中期目標・中期計画の立案に際して、図書館の課題を明確に位置づけられるよう積極的に提案していくことが求められる。具体的には次の点である。
  - ①学生用図書費の充実
  - ②電子ジャーナル等の学術基盤の充実
  - ③機関リポジトリなどの情報発信機能の充実
3. 学生モニター制度によって出された要求の中で、予算要求の伴うものに対して大学当局に対して積極的に協力を求める必要がある。
4. 防災及びセキュリティの観点からも、入退館システムなどの導入を早急に対応すべきである。
5. 図書館職員の専門性を大事にするとともに、企画力などの新しい資質を確保できるような養成計画を持つこと。

## 【閉会の挨拶】

大久保部長：本日はお忙しいところ私どものため時間を割いていただきまして、どうもありがとうございました。本日いただきました貴重なご意見等については、是非私どもの運営に役立たせていただきたいと思っております。それと、図書と情報の充実、情報の発信基地としての、人の集まる場所の提供、時の流れを捉えたサービスを行えるような将来のある図書館にしていきたいと思っております。今回を機会に、甘えさせていただき、今後とも折りに触れて意見をいただいで私どもの運営に示唆を与えていただければと思っております。簡単ですが、本日の最後の挨拶とさせていただきます。本日はまことにありがとうございました。

## 参考資料一覧

### 静岡大学附属図書館外部評価委員会配布資料一覧

1. 外部評価委員会実施日程
2. 静岡大学附属図書館外部評価委員等名簿
3. 静岡大学附属図書館自己評価書
4. 静岡大学附属図書館外部評価 評価調査票
5. 静岡大学附属図書館概要 2008
6. 図書館通信（静岡大学附属図書館報） No.157, 158
7. 静大図書館 Newsletter No.3
8. Library Navigator（りぶ・なび）2008
9. 静岡大学概要

## 静岡大学附属図書館 外部評価報告書

平成20年12月

編集・発行 静岡大学附属図書館

〒422-8529 静岡市駿河区大谷 836

電話 054-238-4473 FAX 054-238-5048

電子メールアドレス tosyokan@adb.shizuoka.ac.jp

ホームページ URL <http://www.lib.shizuoka.ac.jp/>